

# 地域医療連携室だより

平成 18 年 11 月  
第 16 号

## 副院長就任の挨拶

大阪回生病院副院長 土居布加志

本年 10 月より、宮本前副院長の後任として大阪回生病院副院長に就任いたしました。

当院は平成 17 年 12 月に北区より淀川区へ移転して以後、救急および外来ともに患者数が増加し、着実にその業績を積み重ねつつあります。これもひとえに淀川区医師会の先生方をはじめとして、旧病院の頃より患者様のご紹介をいただいている地域の先生方のおかげであり、深謝申し上げます。

当院の今後の課題といたしましてまず、スタッフの充実が急務と考えております。数年前より研修医のスーパーローテーションが始まり、全国的に大学病院の入局医師が減少し、大学からの派遣医師の確保が非常に困難となってまいりました。また看護師の確保も困難な時代となっており、病院独自でカラーを持たなければ当院のような病院の生存は厳しいものと考えます。患者様に高度の医療を提供する為には人的資源は必須であり、疾患を救療するためにはまず、医師及びスタッフが心身ともに健全でなければならないと私は常々考えます。財務的にも人的にも余裕があり、職員が誇りと喜びを持ち安心して働ける職場を目指します。

次に、真の病診連携は診療所と病院が一体となり、ひとりの患者様の診療を円滑に行う為にあると考えますが、そのために当院が何をすべきかを考えなければなりません。特に患者様の外来の待ち時間に関しては皆様大変ご迷惑をおかけしており、早急に解決すべき問題であると思います。今後は入院を主体とした診療に重点をおき、地域の先生方と綿密な連携がとれる体制を整えなければなりません。

さらに、退院された患者様の後方支援病院の確保も必要です。現在当院は 2 次救急を行っておりますが、高齢者の骨折や肺炎などの入院が増加しており、独居やご家族の都合等で在宅に帰れない患者様にとって、現状では療養型病院の確保は困難となっています。今後はさらに療養型病院の数が減少するともいわれており、在宅での療養が困難な患者様がますます彷徨う危険があり心配されます。

病院もディズニーランドと同様に「永遠に未完成」であると思います。従って、患者様の声にもっと耳を傾ける必要もあります。モニター制の導入を検討し、患者様が安心して快適な生活を送れるような環境作りを目指したいと考えます。

病院経営自体が前途多難な時代となっておりますが、今後も微力ながら情熱を持ち続けたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

## 院是（理念）

我回生病院は之を永遠に維持し人類の疾患を救療し一視同仁博愛慈善をもって院是とす。

## 基本方針

1. 高度な最新の医療をやさしく安全に提供します
2. 病者の人間性を大事にし、さらにその主体性を尊重し、発揮できる医療を提供します
3. 地域の中で求められている医療を提供します
4. 病院職員全員がチームとなり、その能力を十分に生かしあう医療を提供します

## 診療紹介

## からだにやさしい内視鏡検査（胃カメラ） 鎮静下内視鏡と経鼻内視鏡

大阪回生病院 消化器センター長 谷村博久

「先生に検査してもらって、今日の胃カメラは本当に楽でした。ありがとうございました。」と患者さんに言われると、検査の疲れもさーっと消えて笑顔が出るようになりますが、「今日のカメらはえらいしんどかった。もう二度と胃カメラなんかしたくないわ。」などと面と向かって言われてしまうと、次の検査も億劫になってしまいます。数十人に一人でもこのような人がいる限り、「胃カメラはしんどい検査だ。」の神話は全世界に広まって消えることはありません。治療内視鏡等を除く通常の上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）を苦痛なく行うことは、機器の性能向上や診断能力の進歩に勝るとも劣らない重要な課題です。現在のスコープは、充分訓練を受けた術者が扱うという条件さえあれば、患者さんに与える侵襲度の低さとその性能のバランスからすれば完成の域に達しているといえますが、一部の患者さんにとっては、大変な苦痛を伴う検査となってしまうこともあります。

当院では、「からだにやさしい内視鏡検査」として、**鎮静下内視鏡と経鼻内視鏡**を行なっています。

### 鎮静下内視鏡（セデーションを用いて行なう通常ファイバー検査）

ドルミカムなどの鎮静剤を静脈投与し、意識下鎮静（半分眠っているが、強く声をかけると応答する。逆行性健忘で検査中のことは殆ど記憶に残らない）のもとに内視鏡検査を施行する。

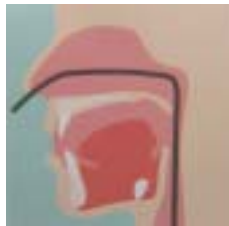
- |    |   |
|----|---|
| 利点 | 患者様は検査が知らない間に終わったという感覚<br>術者は患者の嘔吐反射や苦痛などに制限されず検査を行える<br>通常内視鏡機器で検査できる  |
| 欠点 | 薬剤を使用する（鎮静剤）のでアレルギーやショック、呼吸抑制などが起こりうる<br>循環呼吸監視モニターとルートキープを行なう手間とコストがかかる<br>検査後 1 時間以上休養してからの帰宅となる<br>(当院ではリカバリー用リクライニングシートを 5 席用意しております)<br>患者様は、自分の検査中の内容が自分で把握できないという不安がある |

### 経鼻内視鏡

外径 5.9mm の最新型経鼻ファイバースコープを用い、鼻から挿入して舌根部に接触せずに内視鏡検査を行なう。画質、操作性は経口ファイバー殆ど劣らず十分な検査が可能。

- |    |   |
|----|---|
| 利点 | 咽頭反射や嘔吐感が起き難い<br>検査中、患者様との会話が可能<br>「太いものを口から飲み込んだ」という辛い感覚が残らない  |
| 欠点 | 鉗子口が細く、止血などの処置は不可能であり、生検材料の採取量が少ない<br>吸引チャンネルが細いため、粘液などの洗浄にやや時間がかかる<br>前処置としての鼻腔麻酔がやや煩雑<br>鼻炎その他の鼻疾患患者様には施行できないことがある<br>鼻出血を一時的に伴う場合がある |

経鼻挿入図



経口用



経鼻用

当院では、現在、月間約 350 件の上部内視鏡検査の内 18% を鎮静下および経鼻内視鏡で行なっております。原則として、経鼻内視鏡は検診やそれに準ずるときに多く用い、著明な症状があり悪性も予想される場合で反射が強い方には、鎮静下内視鏡を施行しています。

地域の先生方にも、このような各検査の特徴をご理解の上、「からだにやさしい内視鏡検査」のご依頼をいただければ、積極的に対応していきたいと思っております。

## 第 1 回 学術連携の会のお知らせ

日時 平成 18 年 12 月 2 日 (土) 15:00~16:30

場所 大阪回生病院 1 階 大会議室

### 「音声障害の診断と治療」

大阪回生病院 耳鼻咽喉科・大阪ボイスセンター

部長 望月 隆一 先生

\* 本講演会は大阪府医師会生涯研修の認定 (5 単位) を申請しております。

ミニ

### 本棚設置しました

診療待ち時間におきましては、皆様にご迷惑をおかけしております。この度、待ち時間の精神的緩和を目的に本棚を設置いたしました。実質的な待ち時間の改善には至りませんが、どうぞご利用ください。



## 回 互恵会 大阪回生病院

病院長 菊池 幹雄

〒532-0003

大阪市淀川区宮原 1-6-10

TEL 06-6393-6234 (代表)

FAX 06-6393-8362 (地域医療連携室)

< 発行者 > 地域医療連携室

< 発行日 > 平成 18 年 11 月 1 日

< ホームページ >

<http://www.kaisei-hp.co.jp/>